

「みみよりライブ 5up!」で生中継 農彩館 矢野とれとれ市場

1月にリニューアルオープンしたJA広島市直営の産直市「農彩館 矢野とれとれ市場」が2月10日、広島ホームテレビの情報番組「みみよりライブ 5up!」で生中継されました。古本和也店長が新しくなったとれとれ市場の魅力をPR。また地元の新鮮野菜を出荷する矢野農事研究会の野代正道会長が登場し、矢野地区で生産した旬の農産物やおいしい食べ方などを紹介しました。



広島市「水産まつり」に出展販売

2月23日に西区の広島マリーナホップおよび広島観音マリーナで開催された「第30回広島市水産まつりinマリーナホップ」の



「朝市コーナー」に観音支店が出展しました。会場では、観音ねぎや葉ゴボウ、春キャベツのほかお米や広島菜漬などJA広島市管内産の農産物をPR・販売しました。当日は、天候にも恵まれ、大勢の来場者でにぎわいました。

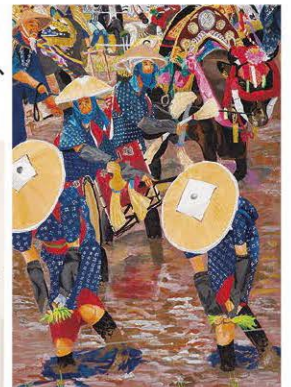
湯来地区の矢野崎指導員が代表に JA広島市営農指導員成果発表会

JA広島市では、管内18拠点に配置した営農・畜産指導員が中心となり、地域農業の活性化による農業生産の拡大と農業所得の増大に向けて取り組んでいます。この度、営農指導の知識や技術の共有化や指導員の資質向上、指導機能のさらなる強化などを旨として「JA広島市営農指導員成果発表会」を行い、各指導員が第6次営農振興計画の取り組み成果などを発表しました。佐伯区湯来町の特産品タラの芽生産の課題であるタラノキの立枯疫病への取り組みを発表した矢野崎大輝指導員が最優秀賞となり、JA広島市代表として広島県JA営農指導活動成果発表西部地区大会へ、さらに西部大会でも代表に選ばれ広島県大会へ進むこととなりました。



全国農業協同組合中央会会長賞受賞 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

JAグループが主催する「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールにおいて、西区の井口台中学校1年生の榎本陸斗さんの図画作品が、全国農業協同組合中央会会長賞を受賞しました。「伝統を守る人々の豊作への祈り」と題した榎本さんの作品は、「総出の伝統行事の様子や飾り牛などが盛り上がったにぎわいの一コマが見事に表現されている」と評され、榎本さんは東京で行われた表彰式に参加し、賞状を授与されました。



地元の名前のついた広島伝統野菜 「矢賀ちしゃ」を収穫 矢賀小学校

小さくちぢれ、肉厚で赤みが濃く、程よい苦みが特徴の広島伝統野菜「矢賀ちしゃ」。東区の矢賀小学校2年生66名は2月17日、校内に植えた矢賀ちしゃの収穫を体験しました。児童らは、



矢賀地区の生産者飯田澄雄さんやJA営農指導員の指導を受けながら1人1株ずつ収穫、各々の自宅に持ち帰りました。同小の総合学習に協力し、苗を育て、定植の指導や栽培管理などを行っている飯田さんは「子どもたちに地元矢賀の地名が付いた野菜があることを知ってもらえた。これからもこうした活動を応援していきたい」と話しました。

ジャガイモの植え付けを初体験 温品幼稚園

2月18日、東区の温品幼稚園の園児18名は、温品支店の向井健営農指導員の指導を受けながら、ジャガイモの植え付けを初めて体験しました。「子ども農業教室」など、食農教育活動を行っている温品支店の石橋一幸支店長は「次世代を担う子どもたちに農業への理解を深めてもらえるよう、今後も食農教育に取り組みたい」と意欲的です。

